

# 進化 ← 長崎!!

「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」に向けて「進化」する長崎。このコーナーでは、重点プロジェクトをはじめとした中・長期的な取り組みをご紹介します！

橋を渡って出島に入れるようになります

## 出島表門橋架橋プロジェクト

### 江戸時代の出島を実感

17世紀に長崎に造られた扇形の人工の島「出島」。対岸の江戸町とは長さ4・5メートルほどの石橋「出島橋」で結ばれ、オランダ人や長崎の商人たちが橋を渡って交流していました。

明治時代以降、出島の周囲は埋め立てられ、陸続きとなりました。また、中島川の変流工事により、扇形の内側の部分が約15メートル削り取られて川幅が約30メートルとなり、石橋はなくなりました。

もし、昔の人々と同じように、橋を渡って出島に入ることができたら、海に浮かんでいた江戸時代の出島の雰囲気を感じられるのではないのでしょうか？

そこで、市では、平成28年10月の完成を目指して、当時橋があった場所に新たな橋「表門橋」を架ける計画を進めています。



(江戸町側より)

(玉江橋側より)

設計者選考時に提案された表門橋デザイン案

表門橋を通じて出島とその周辺が一体となることで、長崎のまち全体の魅力をさらに高めることを目指しています。

### 現代の工法で新しい橋を架ける

- ◆ 出島への架橋にはさまざまな課題があります。出島と江戸町の間が当時と異なるため、当時より6倍以上長い橋を架ける必要があります。
  - ◆ 出島側は国指定史跡なので、史跡を削って橋の土台を設置することができません。
  - ◆ 川の流れを極力妨げないようにするなど、河川管理や防災に配慮する必要があります。
- このような課題があるため、当時と同じような石橋の出島橋を復元することは困難です。そのため、**表門橋として、現代の工法による**

新しい橋を架ける予定としています。

### 皆さんとともにデザインを検討

現在、表門橋と対岸の中島川公園を整備するために、民間の設計チームと行政・学識経験者が協議を行っています。その会議の様子を公開するなど、市民をはじめとする皆さんに情報提供をしながらデザインの検討を進めています。

今後も、数回に分けてシンポジウムを開催（次回は3月21日（祝））、現状の課題や今後の整備の方向性などを皆さんと共有しながら、プロジェクトを進めていきたいと考えています。

### 【問い合わせ】

出島復元整備室 ☎829・1194

### 設計者の想い～ふたたび海を渡る橋～

出島は、かつて、日本で唯一西洋と結ばれていた最先端の文化発信地でした。長崎は、日本の伝統文化と共に、オランダ、中国などとの交易から国際都市としての歴史を持ち、日本のどこにもない独自の文化を育んできた土地です。過去の歴史を大切にしつつも、未来を見据えたチャレンジを行ってきた街とも言えます。

出島表門橋は、さまざまな制約条件がある中、欧州の設計技術によって他に類を見ない橋梁形式の現代橋となります。しかし、橋を渡って出島へ入るといった往時の体験をできる意義は大きく、また、国際的な交流から生まれる橋を、長崎・出島の新しい観光資源に育てていくこともできるはずです。

橋は文化です。その時代の技術の結晶であるからこそ、後世の人々にとって文化的な価値を持つものになるのだと信じています。海を渡る往時の体験と、海外との交流という2つの意味において、表門橋は「ふたたび海を渡る橋」となるでしょう。世界とつながる出島の新しい観光資源にしていくために、長崎の皆さんと対話をしたいと考えています。



ネイ&パートナーズジャパン  
渡邊竜一 代表